

中国における青果物流通の新展開 - 上海市のスーパーによる「農超対接」の取り込みを中心に - : 平成23年度資源環境経済学講座修士論文要旨

著者	威 廉
雑誌名	農業経済研究報告
号	43
ページ	123
URL	http://hdl.handle.net/10097/56353

中国における青果物流通の新展開

—上海市のスーパーによる「農超对接」の取り組みを中心に—

New Trends of Vegetables and fruits Distribution System in China

-A Case Study on "Farmer - Supermarket Direct Purchase" of Supermarket in Shanghai-

威廉 (国際開発学分野)

【目的】

中国における青果物流通の低い効率性と高い流通コスト、農家の低い価格交渉力、食品の安全性の確保といった問題意識の下、中国政府は 2008 年、スーパーと農家の連携による産地直送プロジェクトである、「農超对接」を提唱している。胡 (2010) と安 (2010) の既存研究は、「農超对接」が展開される理由と 3 つの流通モデル、期待される効果について指摘しているが、「農超对接」の実態については未だ明らかにしていない。特にスーパーの視点からの参入動向と課題は述べられておらず、本研究は、「農超对接」を行う上海市のスーパーを研究対象に、スーパーの参入実態と、「農超对接」への参入による効果と課題について整理したい。その上で、新たな流通経路である「農超对接」の今後について展望したい。

【材料と方法】

関連する文献や資料の他、2011 年 8 月-11 月に上海におけるチェーンスーパーを対象に行ったアンケート及び聞き取り調査を活用して、整理する。

【結果と考察】

調査を行った 4 つのチェーンスーパーは、いずれも「農超对接」に参入しており、また、「農超对接」による農家からの直接仕入れの割合が年々増加していることが確認できた。また「農超对接」への参入により、青果物の流通ルートが短縮し、仕入れコストの減少と青果物の鮮度向上が実現されている。更に、スーパーと連携する農民合作社と、両者間での長期契約の増加により、多くの農家へ農産物の販売ルートが確保され、農家の計画生産と収入の安定が実現していた。また、スーパーが生産から流通・販売まで監督することにより農産物の安全性が確保されていて農産物のブランド化も実現されている。このように、「農超对接」を行うことで、生産者、スーパー、消費者にメリットがある点が見て取れた。しかし、「農超对接」はまだ発展段階にあるため、多くの問題点が確認できる。例えば、(1) 農家の安全生産意識が低いとスーパーの受け入れる青果物の割合が低い、農産物の品質が低いに伴ってスーパーと農家の長期契約の達成が困難となる、(2) スーパーの必要する品目が何十種類に対し農民合作社は、「一村一品目」を中心に生産されているためスーパーの大規模の仕入れ要求に対応することが困難、(3) スーパー側の決済期間がヶ月以上であり決済の期間が長いと農民合作社にとって立替金の負担が大きいといった課題である。それらの課題に対して、(1) スーパー側から農民合作社との連携を深め生産に対する技術指導と農家に対する安全意識の指導を行う、(2) 農民合作社が農家に対し農民合作社組織を普及し規模の拡大を図り、農民合作社の管理体制の強化によりスーパーとの取引を正規化される、(3) 政府から法律整備など立法化を加速し、また農民合作社のコールドチェーンなどの物流設備、貯蔵設備への資金補助が期待される。